

# 街の魅力を照らし、安全な暮らしを支える「光の研究」

## 「後付け」だからこそ広がる可能性 新しい付加価値を生む照明と色彩

「建築ラッシュ」と呼ばれた1960～70年代の高度経済成長期から約50年を経た今日。耐用年数を迎えた住宅やビル、老朽化が指摘される橋梁やトンネルなどがあふれるなか、建築の世界では「壊して建てる(スクラップ&ビルド)」から「長持ちさせる(補修・修繕)」への意識が高まっている。そこで注目されるのが、既存の空間や建築物に新しい付加価値をもたらす光や色の演出。東京都市大学工学部でその先進的な研究に取り組んでいるのが、建築物や街路などの周辺環境が人々の心理にどんな影響をもたらすのかを考える「環境心理学」の専門家・小林茂雄先生。2010年に日本建築学会論文(賞)、2011年には東京都市大学の優秀研究者賞を受賞した気鋭の若手研究者だ。

「耐用年数の長いオフィスビルや公共施設では、どうしても挑戦的な試みよりも飽きのこない保守的な設計・デザインが主流になりがちです。だからこそ、照明や色彩といった「後付け」の要素で、建物に新しい表情を持たせたいと思いました」

既存の空間や建築物に「後付けの要素」で新しい付加価値をつける。その発想は近年、人気を集めるライトアップやイルミネーションといった「光(照明)の演出」に通じるもの。もちろん、小林先生の研究テーマは単なるイベント的な演出とは一線を画す。それは言わば「光による人と人のコミュニケーション」を促

す試みにほかならない。

2014年には東急プラザ表参道原宿の屋上テラス「おもはらの森」において、ハロウィンをモチーフとした環境体験空間イベントを開催するなど、次世代技術をテーマにした産学連携事業にも力を入れている。

## 安全を守り、文化を育む「街の灯り」 研究室がめざす魅力ある地域づくり

小林先生が現在、最も力を注いでいるのが街路照明の設計。商店街や住宅地などの街路灯をもっと安全で、かつ魅力あるものにしたという小林先生の発想は、照明に対する一般的な既成概念をも覆していく。

「街路灯はできるだけ明るく、という要望が多いんですが、明るい照明は逆に深い闇をつくります。ですから、住宅地などでは街路灯をむやみに明るくせず、玄関灯や窓の灯りが見える程度にした方がいいんです。家々から「人の気配」を感じることで街の安全性は高まると思うんです」

こうした研究の一環として、2015年3月には、東日本震災の被災地である福島県いわき市久之浜地区で街灯設置による照明社会実験を実施。安心感や防犯性ととも、夜間に津波が発生した際の避難経路を照射することによる安全性の向上について検証している。

さらにもうひとつ、小林先生が安全性と共に重視するのは「魅力ある地域づくり」。現在、研究室では近隣の商店街から要請を受け、街路灯の改修計画も策定しているが、そこに単なるイベント的な仕掛けなど存在しない。基本

工学部  
小林 茂雄 教授

### PROFILE

1993年東京工業大学大学院総合理工学研究科社会開発工学専攻修士課程修了と同時に同研究科助手に着任。1998年博士号(工学)取得。2000年より武蔵工業大学(現:東京都市大学)工学部建築学科講師。2003年に同准教授。2004年より2年間、米・ネヴァダ州立大学ラスヴェガス校客員研究員を勤めた後、2011年より現職。

は地域の住民が主体的に取り組む姿勢。まさに「人と人のコミュニケーション」によって成り立つプロジェクトだ。

「大切なのは住民の意識。道行く人のために小さな灯籠を玄関の軒先につり下げたり、部屋の灯りを少しだけ家の外に漏らしたり。そこに住む人々ができることで街の安全を守り、それがやがて街の魅力となっていく、そのお手伝いをしたいんです」

言わば、既存の建築物に新しい付加価値を後付けしていくだけでなく、地域の安全と文化をもつくり出す「灯りの力」の研究。建築系の多様な研究分野を網羅した同学科のなかでも、とりわけ独創的なテーマに挑戦し続ける個性派研究室とっていいだろう。



2013年より毎年研究室で担当している山形県金山町のライトアップ

## Student's Voice

### 光をはじめ音や動きなどによって変化する人間の意識について研究しています

ただ明るい空間に比べて光に魅力を感じる空間がいかに素敵かということを知っている人にももらえる点にひかれ、この研究室を選びました。どのような演出が人々にプラスの影響を与えるのかを考えるのが小林研究室ですが、空間の印象を変える要素は必ずしも光だけではなく、音や動きなどの仕掛けや人の気配によって変わる人間の意識についても研究しています。実際の活動として、2014年には商業施設の空間向上イベントや住宅展示場のクリスマスイルミネーション、商店街

の魅力を引き出すキャンドルパーティーなどを手がけ、一般の方にも多数ご参加いただきました。現在は自分の研究としてリゾート施設の照明改修計画を行い、自治体からの依頼で町全体のライトアップや企業からの提案で窓の明かりが与える影響についても研究しています。

研究室の雰囲気もよく、いいモノを作りたいという学生のまなざしと、いい研究をしたいという先生の熱い思いをお互いが意識することで、最高のファミリーを作りあげているのだと感じます。

工学部 建築学科 4年  
中村 有歩さん  
私立逗子開成高校卒